

第二屆



辽宁省翻译大赛

关注“辽宁省翻译学会”及“译国译民”公众号，了解最新大赛信息

2021年辽宁省第二届翻译大赛日译汉 日语原文

次の日本語の文章を中国語に訳しなさい

「辺秋^{いち}一雁の声」——杜甫。白露の候となり、葉末に結ぶ朝夕の露が白く光る。シベリヤやカムチャツカからそろそろ雁が渡って来るころだ。先日、海岸で雁を見たというハンターの話聞いた。雁は夜だけ飛ぶ。互いに鳴き交わしながら、今ごろは、どこの月夜の海を渡っているのだろうか。

津軽半島に伝わる「雁風呂」の話は、ご存じの方も多いと思うが、心やさしく、また哀れ深い伝説である。雁は遠い北国から海を渡る時、木の枝を口に銜えて飛ぶ。疲れると枝を海に落として、その上に羽を休めるという。

秋、津軽半島にたどり着くと、必要の無くなった枝を海辺に落とし、翼を連ねて日本列島をさらに南へ向かう。山を越え、谷を渡っても、力尽きて溺れ死ぬ心配は、もうない。日本で冬越し、早春に津軽に戻る。その時自分の落とした枝を見つけ、またこれを銜えて北に帰る。

雁の群れが去ったあと、海辺に残された枝の数は、死んだ雁を意味する。狩人に撃たれたものもいよう。小さな枝は、子雁かもしれない。村人たちはこの枝を拾い集め、それで風呂を焚いて雁を供養する。これが「雁風呂」の言い伝えである。

津軽には、藩の御料林への立ち入りが許さず、日々の薪にも事欠いた人々がいた。だから海辺に打ち寄せた木片は、海水を吸って持ちがよく、またとない贈り物だったという。春三月となり、厳寒を耐え抜いた村人たちは、北に帰る雁の鳴き声を聞きながら、枝を拾ったに違いない。そうした厳しい風土と貧しさであればこそ、この珠玉のような悲しく美しい民話を生んだのだろう。

——深代惇郎『新国語1』